

1 堺市二次医療圏の概要 (3) 病床機能分化の状況

回復期機能の報告が年々増加し、転換が必要な割合は、約6%となった

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	重症急性期		回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
				急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	861	2,529			1,959	3,947			9,296
病床機能報告	2014	804	3,449			971	3,793	67	472	9,556
病床機能報告	2015	652	3,625			742	3,952	54	528	9,553
病床機能報告	2016	679	3,560			845	4,003	123	256	9,466
病床機能報告	2017	702	3,372	0	825	963	4,063	221	12	9,333
病床機能報告	2018	1,093	3,200	1,829	28	1,151	3,871	59	10	9,384
病床機能報告	2019	1,093	3,053	2,605	0	1,390	3,758	70	29	9,393
病床機能報告	2020	1,106	3,018	2,575	0	1,456	3,727	58	0	9,365
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	938	2,961			2,434	3,031			9,365
病床数の必要量【オシナリ】	2025	991	3,128			2,571	3,202			9,892

● 病床機能報告 (2020年度) と病床数の必要量 (2025年) の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	重症急性期		回復期	慢性期	休棟等
				急性期(不明)	地域急性期			
病床機能報告	2019	11.7%		27.8%	0.0%	14.8%	40.1%	0.7%
病床機能報告	2020	11.8%		27.5%	0.0%	15.5%	39.8%	0.6%
病床数の必要量	2025	10.0%				26.0%	32.4%	

サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告 (地域急性期+回復期)

2019年度(暫定)	19.6%
2020年度(最終)	20.2%

② 病床数の必要量(回復期)

割合の差 5.8% (約500床)

26.0% 出典 病床機能報告

2020年度 病床機能報告
 高度急性期 11.8%
 重症急性期 27.5%
 地域急性期 4.7%
 回復期 15.5%
 慢性期 39.8%
 休棟等 0.6%

2025年 病床必要量
 高度急性期 10.0%
 急性期 31.6%
 回復期 26.0%
 慢性期 32.4%